

(1) 科目の紹介

科目名	韓国語 I	開講年度：2012 開講学期：前期 曜日校時：水 3 単位数：1	全学 演習 必修
教員名（所属）	劉 卿美（言語教育研究センター）		
対象学部・年次	水産、工学、教育・1年次	受講人数：53名	
授業のねらい	この授業では、ゆっくり、しかし確実に、ハングル文字を読み、書くことができる。さらにその力をもとに、簡単な会話文を用いて、韓国語でコミュニケーションができることを目標とする。		
授業の方法	授業では毎回、下記の到達目標①～⑤を達成するため、4つの活動、1) ひとことハングルを覚える、2) 表現を覚える、3) 韓国について知る、4) とっておきハングルの覚える活動を行う。なお、毎回、課題（ワークシート）に取り組み、授業で覚えた単語や表現を確実に身につけるようにする。		
おもなアクティブラーニング手法	教員による教授にまして効果的な教授法は、学生がほかの学生を教えることである。そのため授業では、学生同士の教え合い学び合いによる「協同学習」の手法を取り入れている。授業中は、教員による発話量を必要最小限に抑え、配布教材にも解説、解答は載せていない。学生は与えられた不完全な情報を、協同学習を通して完成させることになる		

(2) 学修評価について

到達目標	①ハングルを読み、書くことができる。 ②自己紹介ができ、相手のことも質問できる。 ③自分がしたいことを伝え、相手のことも質問できる。 ④一日の生活を説明し、相手にも質問できる。 ⑤自分が好きなこと、嫌いなことを伝え、相手にも質問できる。
成績評価の方法	平常時の評価（①小テスト：各10点満点、3回、20%、②課題（ワークシート）：各2点満点、4段階評価、10回、20%、③授業への取り組み方（授業態度、参加状況等）：10%）と、定期試験による評価（50点満点、50%）により評価する。

(3) 授業進行の概要と詳細

授業進行の概要
 (最終の定期試験以外は、いずれの回もこの進行方法による)

- ワークシートを返却する。
- 黒板に「今日の流れ」を板書する。
 - 1) ひとつことハングルを覚える ～〇時〇分
 - 2) 表現を覚える ～〇時〇分
 - 3) 韓国について知る ～〇時〇分
 - 4) とっておきハングルを覚える ～〇時〇分

1) ひとつことハングルを覚える (プリント教材) 10分

学生間の壁を崩し、スムーズに協同学習に導入するための部分である。

ペアで簡単なハングル表現を覚える。教員による文法説明や発音練習は行っていない。

授業は座席指定制にしている。第2回目の授業で座席表を配って、自己紹介をする時間を設けており、活動の際、ペアや前後4人グループで協力するように指示している。また座席を指定する利点としては、名前で指名することができ、出欠確認や課題の回収・返却が効率的にできることがあげられる。

2) 表現を覚える (プリント教材、右上に例示) 60分間

授業の中心となる部分である。約1時間の間、学生の集中力を持続させるために、2つのパート、発音を確認するパートと書き方を確認するパートに分け、活動に変化をつけている。いずれのパートにおいても、まず学生に考えさせ、教員は修正する程度にとどめている。

3) 韓国について知る (プリント教材、右下に例示) 10分間

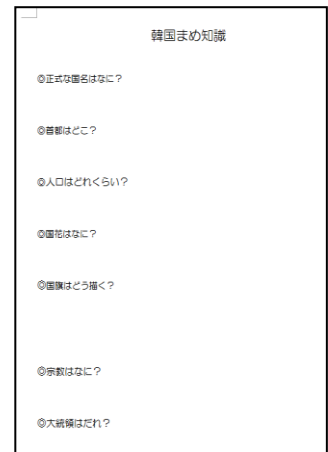
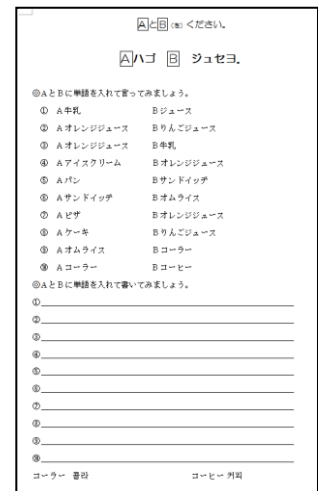
異文化理解力の涵養は、初習外国語の重要な教育目標の一つであると考えている。その一環としてここでは、現代韓国を理解するための基本的な事項を取り上げている。クイズ形式を取り入れており、学生同士で話し合った結果を指名などで聞きながら解答していく。今後はクリッカーの活用も考えられる。

4) とっておきハングルを覚える (ビデオ教材) 5分間

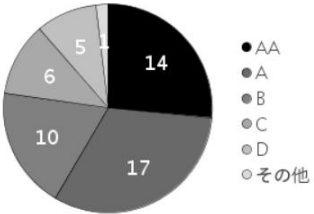
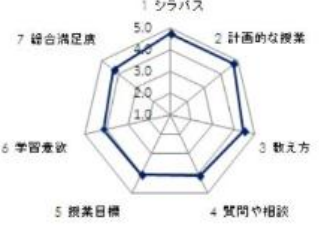
NHKテレビが制作したビデオ教材を用いている。

授業が楽しかったという印象を残し、次の授業へつなげる。

- ワークシートを配布する。(学生は提出して解散する。翌週、教員が赤を入れて返却する。)



(4) 授業の成果

<p>成績の分布 (円グラフなど)</p>	<p>総合評価の平均点は 80 点 (100 点満点)、AA と A は全体の 58% を占めていた。平均点及び成績分布から見て、全体的に適切な難易度の評価であったと判断している。評価は平常時の評価 50% と定期試験による評価で 50% 行っている。今後は不合格者の割合を減らすために (現在 11%)、平常時の評価において成果が不振な学生に対しては、個別面談を含め、適切な支援を行いたいと考えている。</p> <div style="text-align: right;"> <p>■成績分布 (受講者数53)</p>  <table border="1"> <caption>成績分布 (受講者数53)</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div>	評価	人数	AA	14	A	17	B	10	C	6	D	5	その他	0
評価	人数														
AA	14														
A	17														
B	10														
C	6														
D	5														
その他	0														
<p>学生の授業評価 (レーダーチャートなど)</p>	<p>すべての質問項目において 4 以上の良好な結果が得られていると考えている。</p> <div style="text-align: right;"> <p>■期末の授業評価</p>  </div>														
<p>全体の振り返り</p>	<p>現在韓国語 I は本授業を含め、4 クラスが開講されている。その中の 1 クラスを選び、毎回の授業終了時に授業評価を行ってきた (大学の授業評価用紙を利用)。マークシート式の質問項目と自由記述欄を記入してもらい、教員がコメントを書いて、次回の授業で返却する形である。上記のような授業形態にしたのは、2007 年に、この授業評価の評価点が大きく落ち込んだことがきっかけであった。なかでも教材に関する評価点が特に低かったことから、それまでの主教材であった市販の教材をやめ、自作教材や協同学習を取り入れたのである。以後、再び評価点が上昇し、現在まで大きな変化は見られていない。この結果から見て、改善のための工夫は有効であったと考えている。教員としての経験や勘は大切である。ただそれだけでは見えないものもあることを学んだ。今後も、客観的なデータも参考にしながら、授業改善に取り組んでいきたいと考えている。</p>														
<p>今後の改善点</p>	<p>1) 授業で使用する教材は教員自身が制作している。その理由は、第一、本学学生に焦点を合わせた内容にしやすいからであり、第二に、学生の学習状況を見ながら柔軟に教材の増減や修正ができるからである。ただし、1 回の授業あたり 3~4 枚のプリントを使用するため、毎回 200 枚以上を印刷・配布する必要があった。今後は WebClass 上に教材をアップすることで、印刷・配布の負担を軽減したい。</p> <p>2) これまでは復習に重点を置き、ワークシートを復習課題として課してきた。今後は予習を強化する必要があると感じている。予習を強化することで、授業ではさらに発展した内容を扱うことができると期待している。</p>														

(5) アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	アクティブ・ラーニングを充実させるためには、予習・復習は欠かせない。本授業では毎回、ワークシートを復習課題として課してきた。毎週の 50 余枚のワークシートをチェックすることは、他にも授業があり、負担が小さいとは言えない。ただし予習・復習は、学生を勉強に向かわせる、基本的な手段である。教員の負担増には違わないが、得られる効果を考えれば、学生にとっても教員にとっても、取り組むだけの価値は十分ある。
参考になる資料	『協同学習の技法』エリザベス・パークレイ他著、安永悟監訳（2011）ナカニシヤ出版